

2026年2月1日 実施

久留米大学

一般 生物



1.

問 1 ③ 問 2 ②,③ 問 3 0.75 問 4 中心体 問 5 ④ 問 6

①

問 7

繊毛を持つ細胞：輸卵管の内皮細胞

役割：繊毛運動によって異物を体外へ運び出す。(19 字)

※別解 輸卵管先端部で生じた受精卵を子宮方向へと移動させる。(26 字) (別解)

問 8 ③ 問 9 ① 問 10 ③

問 11 グループ名：オピストコンタ 原生生物の名前：エリベンモウチュウ

2.

問 1 (A), (C), (D)

問 2 口と肛門の役割を兼ねており、開口部を介して、食物の体内への取り込みや不消化物や老廃物の体外への排泄が行われる。(55 字)

問 3 環形動物：(D), (L) 線形動物：(I) 節足動物：(B), (F), (H), (K)

問 4 中胚葉 (C), (F), (H) 問 5 (B), (D), (E) 問 6 (A), (D)

3.

問 1 (ア) b (イ) d (ウ) g

問 2 (1) 輸尿管 (2) ネフロン(腎単位) (3) 糸球体 (4) ボーマンのう

(5) 腎う (6) 膀胱 (7) 尿道

問 3 2 mL 問 4 (B) 問 5 バソプレシン

問 6 尿量は減少し、色は濃くなる。

問 7 (1) (A) (2) (C) (3) (C)

問 8 名称：鉱質コルチコイド 分泌する器官：副腎皮質 標的器官：腎臓の細尿管

4.

問 1 (ア) プライマー (イ) DNAポリメラーゼ (ウ) ヌクレオチド

問 2 両親から受け継いだ13番染色体の遺伝子座Aに存在する対立遺伝子の反復回数が異なっていたから。(46字) 出現頻度：0.118

問 3  $6.55 \times 10^{-10} \%$

**【講評】**

大問1は微小管の構造や働きに関する出題であった。知識を問う設問が多く、基本的なものから細かい内容まで広く出題された。また、問3の計算問題の難易度は高くないが、目新しいため時間を要した受験生も多かったと思われる。

大問2は動物界の分類と発生に関する知識が問われた。選択問題は全て選ぶ問題のみで構成されており、曖昧な知識では正解に辿り着けず、点数が伸び悩む大問となった可能性がある。

大問3は腎臓の構造、尿計算、ホルモン調節を扱う医学部入試の頻出テーマであった。他の大問に比べて問われている内容は非常に基本的であり、計算問題もあるが典型的で易しいレベルだった。

大問4はPCR法やDNA型鑑定をテーマとした出題であり、2024年度の大問1ともテーマが重複している。知識問題はPCR法に必要な試薬を答える基礎的なものであった。後半の計算問題も基本的な内容だったが、数字が細かいため計算過程でのケアレスミスには十分な注意が必要。落ち着いて処理すれば確実に得点できる内容であった。

昨年度に見られたような考察問題は減少し、全体を通して計算問題の比重が増加した。また、知識問題に関しては非常に細かい知識まで問われる傾向が見られた。思考力よりも正確な知識と処理能力の方がやや重視されている傾向にあった。しかし、大問1や大問2で細部を突く出題が多く、また全て選ぶ問題も増え、高得点を取るのには容易ではなかったと思われる。得点目標は6割5分程度。